

# 令和3年度 岡山県立勝間田高等学校 学校評価書

校長 中野 功 ㊞

## 1 自己評価

### I 評価結果

(別紙参照)

### II 分析・改善策

#### 1 学力向上

- ・家庭学習を定着させる。
- ・授業改善を行う。

主体的対話的で深い学びを意識しながら、多くの教員が状況に応じて協同学習やICT機器を効果的に活用した授業を実践している。特に1人1台端末を来年度に控えたことを考慮に加えた研修や実践を行っている。具体的には、オンライン授業を想定したICTの活用についての校内研修、コロナ禍によるリモート集会等が挙げられる。一部の部活動等に加えすべての教科でgoogle クラウドが開設され、課題の配付等の活用が一般的なものとなっている。昨年度に引き続き今年度も家庭学習時間とユニバーサルデザインを意識した授業に焦点を当て業務を行った。しかし、日々の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に翻弄されたことは昨年度と同様であった。

##### (1) 家庭学習について

4月の家庭学習時間調査の結果は、家庭学習時間が0時間の生徒が66.3%であった。その後、考査ごとに調査を実施し、1学期中間考査前では32.7%、1学期期末考査前では29.9%と減少し、目標の50%を切っている。その後の9月の学習時間調査(基礎力診断テスト)では学習しないとの回答が46.8%(前年比-6.6%)で、目標の50%を切った。考査ごとの調査でも、家庭学習時間が0時間の生徒は、平均約30%である。長期休暇期間中など、課題の内容・分量を考慮して課したが、提出する生徒と未提出の生徒の固定化や、取り組み方の差が大きい。

##### (2) 授業改善について

ユニバーサルデザインを意識した授業改善の取組は、年間を通じて授業づくりの指標とした。「学校は落ち着いて授業が受けられる環境」生徒回答73%(前年比-3.5%)、「わかりやすい授業が多い」生徒回答73%(前年比+5.5%)、「自分のコースの学習内容に興味がある」生徒回答69%(前年比+1.7%)。また、6月と11月に勝間田コミュニケーションを実施し、ICTを活用した授業など、情報共有や授業改善に向けての意欲の向上を図ることができた。また、休校等となった場合に備え、生徒がオンライン授業に対応できるよう、生徒のMeet接続テストも行った。

#### 2 生活習慣の確立

- ・「勝間田スタンダード」を徹底し、基本的な生活習慣と安全な生活を確立させる。
- ・部活動と生徒会活動を充実し、生徒に自信と誇りを持たせる。
- ・校内美化、校外清掃活動を推進する。
- ・自己の健康について関心を持たせ、健康意識を高めさせる。

生徒課を中心に生活指導を学校全体で取り組んだ。近年の傾向としては暴力的または反社会的な事案は減少傾向にある一方、軽微な違反(スマホ使用違反・服装違反等)が目立つ。担任・学年団を中心とする日常的な指導が定着し、生徒課主導の「服装・頭髪点検」は節目に実施した。指導票指導は、前年同期比-51件(約49%減の67件)である。傾向

は1・3年生は前年より減少、2年生は増加。部活動充実の取組は、コロナ禍の長期化もあり実施できない状況が続いた。体育科が昼休みの体力づくり活動を生徒に呼びかけている。清掃時間の清掃状況は一部の生徒を除き昨年より向上している。環境美化委員の校外での活動としては挨拶マナー運動を1月末に予定していたがコロナ禍のため中止した。また、健康観察の実施や朝食の摂取状況等を把握し啓発を継続しておこなった。現在においても感染症対策としてマスクの着用、手指の消毒など意識している生徒が多い。一方、校内外での大きな声を出したり、昼食時の会話など気になる行動もある。引き続き啓発活動を行っていく必要がある。また、健康観察についても回答率が低くなってきているので対策を考えたい。

### 3 進路実現

- ・進路の活動を通して、主体的に進路決定できる力を育てる。

新型コロナウイルス感染症による影響で就職試験の日程変更や校内での外部人材を活用した「ジョブフェア in 勝間田」等の進路行事が中止となるなど今年度も大きく影響を受けた。10月27日(水)には1年生全員がクラスごと分かれて、クラス当たり2社見学をする企業見学を実施した。コロナ禍での実施に当たり、勝央工業団地に地域を絞り、少人数で複数回に分けて見学した。受入企業が少なくなり規模を縮小しての実施であったが、学年団からも生徒からもやってよかったとの声が上がっている。3年生については担任の先生の生徒・保護者への助言等の元、本人の希望や納得のいく進学先・就職先に概ね落ち着くことができた。ただし、生徒の学力や学習意欲はここ近年格段に下がっている。中学校の時に特別支援学級(知的・情緒)に在籍していた生徒の割合も年々増加しており、職安等と連携しながら生徒の進路について相談・助言等を行っていく必要が生じている。今後も生徒や保護者対象の進路説明会を行うとともに、来年度さらなる改善を行う必要がある。

### 4 情報発信・広報

- ・学校の情報発信

中学校卒業見込者の第一次進学希望状況調査(12月1日現在)95名、同二次調査(1月10日現在)89名の希望者であった。中学校での進学説明会、オープンスクール、本校での学校説明会を実施し、学校PR活動を行った。地域協働活動コーディネーター2名共に、多くの教育活動に参加し、情報収集を行った。収集した情報は素早くインスタグラム等へアップされ、100件以上の情報発信を行った。また、中学校での進学説明会においては、19回中14回でコーディネーターが説明を行った。

## 2 学校運営協議会委員(評価者) <※校長を除く>

水嶋 淳治	勝央町 町長
神田 寿則	勝央町教育委員会 教育長
竹内 由明	勝央町立勝央中学校 校長
光井 俊之	学校法人美作学園 美作大学 事務局次長
吉田 拓司	勝英農業普及指導センター 総括副参事
三ヶ田浩二	キャリア教育コーディネーター
石原 達也	岡山NPOセンター 代表理事
野上 和宏	勝央町立勝央中学校 学校運営協議会 委員
本行 才泰	しょうおう志援協会 会長
佐桑 充倫	地域協働活動コーディネーター
原 璃歩子	地域協働活動コーディネーター
定兼 征輝	岡山県立勝間田高等学校 同窓会長

永禮 淳一 岡山県立勝間田高等学校 前PTA会長

岸本加奈枝 岡山県立勝間田高等学校 PTA会長

### 3 学校関係者評価

第1回 令和3年 6月30日(水) 14:00~16:30

#### 【主な内容】

- 委員紹介
- 学校運営協議会について(説明)
- 会長選出
- 本校の現状と課題(説明)
  - (1) 令和2年度の教育活動・学校評価書
  - (2) 令和3年度学校経営計画書
  - (3) 令和3年度修学旅行実施の可否について
- 質疑応答
- 意見交換

#### <委員からの意見等>

●生徒が落ち着いて学習や実習に取り組んでいる様子を聞いている。情報発信は中学生や保護者へ有益である。今後先生方とも交流を深めたい。昨今、中学生にとっての進学先高校の選択肢が減少していることを悲しく思っている。

●学校の魅力化に関して、本質的な学びとは何かがポイントである。探究活動を通じて生徒は何に気づいているのか、また、農業の魅力はどう発見していくのかが重要である。ものづくりやことづくりばかりが表に出てくる傾向にあるが、本当に大切なものはそのプロセスである。プロセスを学んでいれば、問題解決の糸口や対策を構築できるほか、非認知能力(人間力)の育成にも繋がる。各活動のプロセスに着目し、その可視化をすると良さが伝わる。活動や取組みを整理し、なぜその学びが必要であるかを明確にしておく、教育活動のイメージが捉えやすくなる。

●スマート農業が注目を浴びている。進んでいけばいいと思う。個々の活動は素晴らしいと思うが、全体のコンセプトというかストーリーが見えにくい。農業・林業・先進等がキーワードか。SDGsを絡めた位置づけは現在のトレンドである。農業の将来性を訴える企画や県南対象の取組み、県行事への積極的な参加を望む。

●最近の勝間田高校生の落ち着きは顕著である。農業系列希望の入学生が少ない現状があるが、生徒実態に即した生徒募集が必要ではないかとも思う。

●誰にも負けないものを何か身に付けて卒業してほしい。本校でなければ学べないものをPRしてほしい。

第2回 令和3年11月29日(月) 13:30~16:00

#### 【主な内容】

- 授業参観及び施設見学
- 報告
  - (1) 学校経営に関する事項
  - (2) 組織編制に関する事項
  - (3) 予算執行に関する事項
  - (4) その他関連する事項
- 協議
- 情報交換

#### <委員からの意見等>

●SNSを利用して、選ばれる学校へ。それに生徒が参画することは非常によいことだ。企業でもSNSで発信していこうとしている。これからの時代、生徒が自らの希望で参画し、発信

して行ってほしい。

●基礎学力の向上については、同じような悩みを抱えている学校は多い。他校でも取り組んできたが、探究学習を入れるとよい。SNSでの発信など外の人間が絡むことで、インプットしたものをアウトプットしようとすることで学習効果は上がる。楽しくなる。家庭学習をしなかった生徒が、事前準備や下調べを家庭学習としてしようとする。探究学習を取り入れ、それを子どもたちから発信することで「思考力・判断力・表現力」の効果が上がる。

●スクールミーティングなどを見ても、生徒が主体的に改善していこう、良くしていこうとしている。自己改革が見られることはうれしいことだ。SNSで客観的に生徒が見て、自己肯定感も上がり、生徒が自信を持ってきているのでは。そうすることで、勝間田高校に来たい生徒も増えるのでは。

●自主性を大事にしていかないといけないが生徒たちはいずれ就職していくので、社会が今どういう人間を求めているかを、押しつけではない形で学校でも話してほしい。どう考えてどう自分を磨けばよいか、規則や法律の中で生きていくことの大切さなどを、学校生活の中で学んで行ってほしい。

### 第3回 令和4年 2月22日(火) 13:30~16:00

#### 【主な内容】

- 生徒のプレゼン(ビデオ)
- 学校課題解決に向けての取組状況(報告)
- 委員等による学校支援状況の共有(報告)
- 学校評価
- 令和4年度に向けた学校運営基本方針審議
  - (1) 令和4年度学校経営計画書
  - (2) 令和5年度入学生教育課程
  - (3) 令和4年度学校経営予算

#### <委員からの意見等>

●「こういう生徒を育てたい」という、変化が大きい時代であるからこそ生徒にどういう力をつけてやりたいかを明確化し、強いところを伸ばしていくことが必要。あたりまえがなくなる(募集停止する)ことを考えると、ぞっとする。

●「選べる」というのが生徒たちには魅力である。生徒の興味は多様化している。あれもこれもできるのがよい。系列のしびりが弱いのがよい。学んだことが将来こんなことに生かせる、身につけられる、というのが、生徒たちを引きつけるのでは。

●他県ではで出口戦略、進路戦略をどうしていくかを考えている。企業と生徒のイメージのギャップを埋める、資格を取るとこれだけの仕事ができる、というのを教えることが必要である。資質能力とのマッチングをし、地域で人材育成をしていく。内閣府や文部科学省は起業化や知的財産が取り上げられている。新しいビジネスを生かすオールマイティなものが求められている。

## 4 来年度の重点取組(学校評価を踏まえた今後の方向性)

### 1 学力向上

- ・家庭での学習を推進し、生徒の自主的・主体的な学習への取組を研究、実践。
- ・学び合い、ユニバーサルデザインによる授業やソーシャルスキル教育の実践。
- ・社会人講師等の地域人材を活用した専門知識・技術の向上。

### 2 生活習慣の確立

- ・「勝間田スタンダード」の深化、基本的な生活習慣と安全な生活の確立。
- ・生徒会活動と部活動の充実。

- ・交通安全の徹底。
- ・校内美化、校外清掃活動の推進。
- ・自己の健康への関心と健康意識の向上。

### **3 進路実現**

- ・進路の活動を通して、主体的に進路決定できる力の育成。
- ・キャリア教育の充実・学校生活の充実

### **4 情報発信・広報**

- ・オープンスクール・中高連絡会・中学校での説明会等、学校情報の発信。
- ・福利厚生・PTA行事等への情報発信。
- ・地域協働活動コーディネーターとの連携。
- ・教職員間の情報共有と連携。